



**2019年度
決算説明会資料
2020年5月19日**

株式会社UACJ

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

新型コロナウイルス感染症に罹患をされた方々にお見舞いを申し上げます。同時に、医療関係者の皆さまのご尽力に対し、心より感謝申し上げます。

それでは2019年度の業績について説明します。

1. 2019年度通期業績

2. 2020年度の対応方針

3. 新型コロナウイルスの影響と対応

4. 構造改革の進捗

目次の項目に沿って説明します。

1. 2019年度通期業績

まず「2019年度通期業績」について説明します。

経常利益 38億円（前年度比 24億円減）

■ **数量：前年度比増**

- ・UATH^{*1}（タイ）、TAA^{*2}（米国）の缶材が増加
- ・自動車向けが増加

■ **経常利益：前年度比 24億円（38.9%）減**

◎ **増益要因**

- ・CUA^{*3}合弁解消による
持分法損益の改善
- ・TAA業績改善
(販売増/コストダウン効果)
- ・UATH業績改善

△ **減益要因**

- ・棚卸評価関係による減益
- ・経営環境悪化による販売減
(米中貿易摩擦/国内事業環境)

年間配当 20円／株を予定

© 2019 UACJ Corporation. All rights reserved.

*1: UACJ (Thailand) Co., Ltd. *2: Tri-Arrows Aluminum Inc.* 3: Constellium-UACJ ABS LLC 3

2019年度の経常利益は38億円で、前年度比24億円の減益となりました。

販売数量については、アルミ板でタイのUACJ (Thailand) Co., Ltd.（以下、UATH）、北米のTri-Arrows Aluminum Inc.（以下、TAA）における缶材、自動車材では特に日本国内の自動車材関係が増加し、全体として前年比で増加しました。詳しくは後ほどご説明します。

経常利益の増益要因は、Constellium-UACJ ABS LLCの合弁解消、TAAの業績改善、UATHの業績改善が主です。

減益要因としては、アルミ市況の下落にともなう棚卸評価関係の大幅な悪化、また2018年から続く米中貿易摩擦の長期化があります。これにともなって、特に国内の事業が影響を受け、販売減に繋がりました。

年間配当は期末一括で、1株当たり20円を予定しています。

2019年度 通期業績

UACJ

(単位：億円)

	2018年度 (A)	2019年度 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	6,613	6,151	△462
連結営業利益	149	101	△48
棚卸影響前 連結経常利益	30	98	68
棚卸影響額	32	△60	△92
連結経常利益	62	38	△24
連結当期純利益	11	20	9
Adjusted EBITDA	426	473	47

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

4

業績の詳細についてお話しします。

2019年度の売上高は、販売数量は増えたものの、アルミ地金価格が下落したこと、また期中に伸銅品事業を売却した影響から、対前年度比で462億円減の6,151億円となりました。営業利益、経常利益はスライドの通りです。

棚卸影響前経常利益は68億円増の98億円。親会社株主に帰属する当期純利益は、9億円増の20億円となりました。

Adjusted EBITDAは、47億円増の473億円となりました。

特別損益内訳

UACJ

(単位：億円)

	2019年度
構造改革損失	△10
関係会社株式等評価損	△53
投資有価証券売却益	20
その他	△11
計	△54

法人税等	46
------	----

※当第3四半期連結決算において、当社100%子会社であるUACJ Australia Pty.Ltd.が保有しているBoyne Smelters Ltd.の株式および同社に対する貸付金に係る評価を見直した結果、将来の回収可能性を見込むことが困難であることから、約53億円の関係会社株式等評価損を計上しました。また、それに伴う税効果会計の適用により繰延税金資産を計上しています。

© 2019 UACJ Corporation. All rights reserved.

5

特別損益についてお話しします。

特別損失として、構造改革にともなう損失分10億円を計上しています。また、当社が100%出資するUACJ Australiaのアルミ精錬会社、Boyne Smeltersの株式および同社に対する貸付金の評価見直しにともない、関係会社株式等評価損として53億円を計上しています。

特別利益には、投資有価証券の売却益20億円を計上しました。

同時に、関係会社株式等評価損益にかかる繰り延べ税金資産を計上し、このような結果となりました。

セグメント別 売上高・営業利益

UACJ

(単位：億円)

	2018年度 (A)		2019年度 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	5,307	170	5,038	125	△269	△45
伸銅品	475	17	229	4	△246	△14
加工品・関連事業	1,971	31	1,888	31	△83	0
(調整額)	△1,140	△70	△1,003	△59	136	11
合計	6,613	149	6,151	101	△462	△47

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

6

次にセグメント別の業績について報告します。

当社グループの主力セグメントであるアルミ圧延品の詳細は、後ほど当社全体の動きとして説明します。2019年度の販売量は1,153千トンと、前年度比で5万9,000トンの増加となりました。

伸銅品では、昨年9月30日に事業を譲渡したため、上期のみの利益を計上しています。

加工品・関連事業では、電池材、空調関連製品が堅調に推移しましたが、特に加工品において売上が減少しました。全体としては売上・利益とも横ばいという結果となりました。

アルミ板 品種別売上数量

UACJ

(単位:千トン)

品 種	2018年度 (A)	2019年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	666	702	37
箔 地	50	44	△6
I T 材	15	17	1
自 動 車 材	147	152	4
厚 板	40	39	△1
その他一般材	177	199	22
合 計	1,094	1,153	59
	(国内市場向け 504 海外市場向け 590)	(国内市場向け 483 海外市場向け 669)	(△21 79)

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

7

アルミ圧延品の詳細です。

主要品種の販売数量は、特に缶材で、国内は微減となったものの、タイ・北米拠点では増加し、全体としては前年度比で3万7,000トンの増加となりました。

箔地は機械産業向けの販売数量がやや減少し、6,000トンの減少となりました。

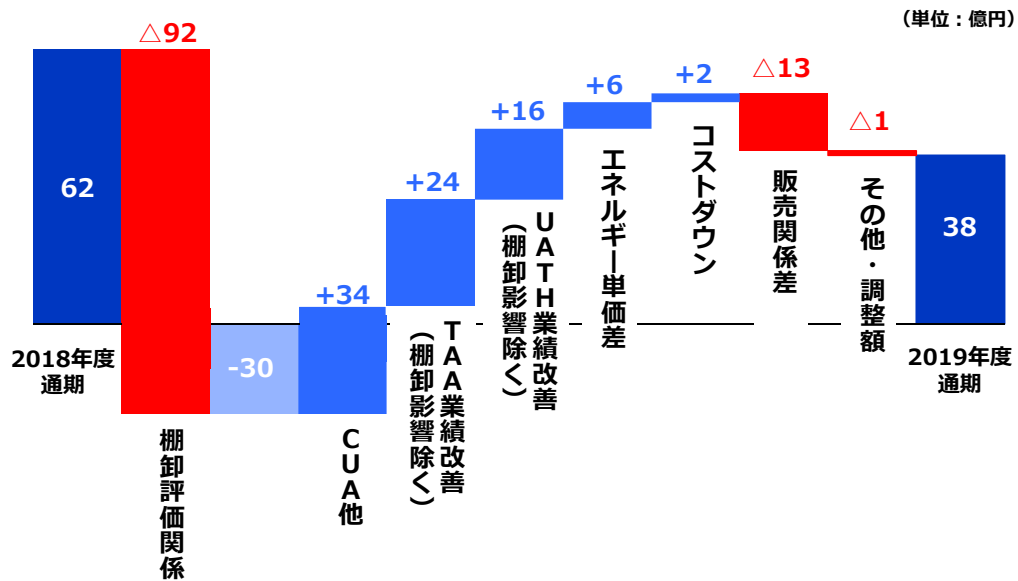
IT関係は前年度に引き続き在庫調整局面にありましたが、パソコン等でアルミ材の採用モデルが増えたということもあり、1,000トンの増加となりました。

自動車材は、アルミ化需要の伸長にともなって国内でのボディパネル材を中心に堅調に推移し、4,000トンの増加となりました。

厚板は、従前からの課題となっていた液晶・半導体製造装置向け厚板の販売数が第4四半期になって増加を始めました。しかし、全体としては若干の減少となりました。

その他一般材については、2万2,000トンの増加となりました。これには北米TAAでのスラブの外販が大きく寄与しています。

62億円 (2018年度) → 38億円 (2019年度)



© 2019 UACJ Corporation. All rights reserved.

8

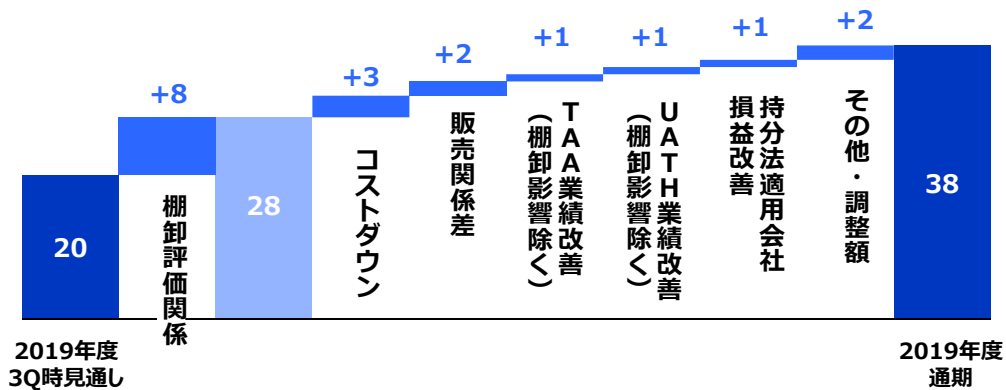
連結経常損益の分析について説明します。

2019年度の経常利益は前年度比20億円減の38億円となりました。棚卸評価関係が地金下落から92億円悪化したことでマイナス30からの出発となり、他の増益要因・減益要因によってこのような着地となっています。

国内では商品の販売数量が減少していますが、その減少割合に比べ、損益の悪化は抑えられています。各事業とも、粘り強さ、韌性が増してきたという感触を持っています。

20億円 (2019年度 3Q時見通し) → 38億円 (2019年度)

(単位：億円)

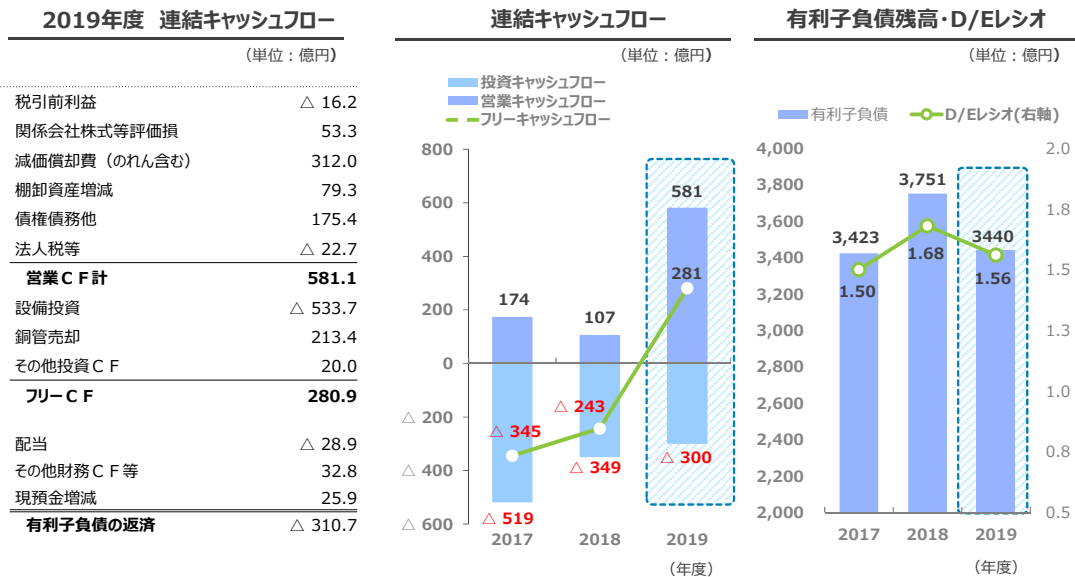


2月2日時点の経常損益予想 (20億円) との差異に関する要因分析です。

上振れの最たる要因は棚卸評価関係です。予想より減少度合いが少なく8億円のプラスとなりました。その他コストダウンの効果、販売関係では値上げや品種構成の効果があり、全体では見通しより18億円の上振れとなりました。

項目ごとの金額は微々たるものですが、各事業が危機感をしっかりと持ち、さまざまな追加施策や経費削減に努めた結果と考えています。

2019年度はフリーキャッシュフロー黒字化、有利子負債の大幅削減を実現



資金・資産の効率化について説明します。

2019年度の営業キャッシュフローは、運転資本の効率化の結果、581億円と、前年度から大幅に増加しました。投資キャッシュフローは300億円の支出となり、その結果フリーキャッシュフローが280億円と、前年度から大幅に改善しました。構造改革の一環として伸銅品事業を売却した結果、一過性のキャッシュインとして213億円を計上していますが、これを除いても好転しています。

このキャッシュフローの好転にともない、無利子負債の返却を進めました。有利子負債も残高が前年度比311億円減少して3,440億円となり、D/ELレシオも1.56と好転しています。

19年度で戦略投資は一巡し、20年度より設備投資は大幅減

(単位：億円)

		2019年度
設備投資	一般投資	143
	戦略投資	347
	合計	489
減価償却費		312
戦略投融资		6

設備投資、減価償却費について説明します。

2019年度の設備投資は合計で489億円となりました。内訳は一般投資143億、戦略投資347億です。

UATH、TAAについての進捗は後ほど説明しますが、戦略投資の代表的なものとしては、国内では特に福井製造所の自動車材の仕上げラインの立ち上げと、押出事業の名古屋製造所における新型プレスの立ち上げがありました。この新型プレスについては、現状、サンプルを試作してお客様に評価いただく段階に来ており、ほぼ予定通りに進んでいます。

純利益の増加に伴いROEは改善

	2019/3末	2020/3末
自己資本（億円）	1,910	1,884
自己資本比率（%）	23.7	25.0
有利子負債（億円）	3,751	3,440
D/Eレシオ*（倍）	1.68	1.56
R O E（%）	0.6	1.1

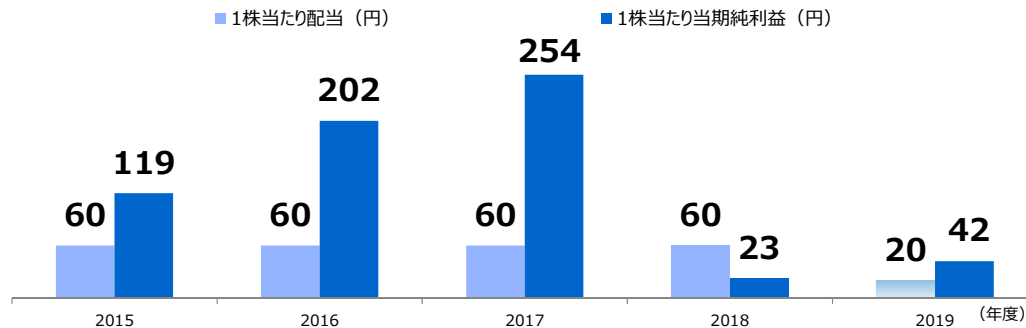
*劣後ローンの資本性考慮後

その他の主要な連結経営指標について説明します。

ROEは純利益の増加にともなって1.1%に改善しました。

2019年度の配当については、当期業績をふまえ、20円とする

1株当たり配当/1株当たり当期純利益*1 (円)



役員報酬制度の改定

■ 社内取締役および執行役員の中長期連動報酬の評価指標として導入済の「連結ROIC」、「連結 Adjusted EBITADA」に加え、新たに相対TSR*2を追加採用

*1株式併合後換算で表記 *2 TSR: Total Shareholder's Return: キャピタルゲインと配当を組み合わせた、株主にとっての総合投資利回り

© 2019 UACJ Corporation. All rights reserved.

13

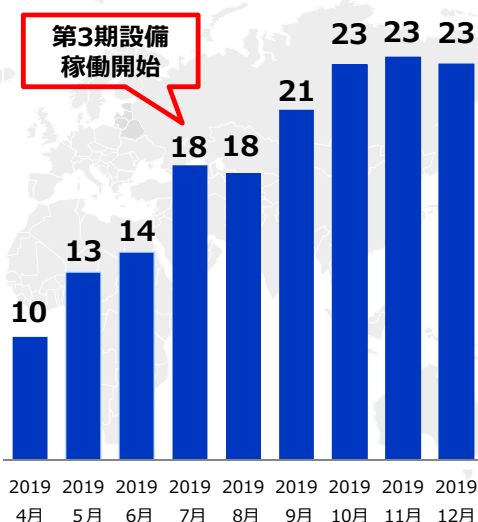
株主還元について説明します。

2019年度の年間配当は、当期の業績を踏まえて20円とします。

役員報酬制度については、相対TSRを追加採用しました。

第3期設備が稼働し、月産2万トン体制確立（4Q: 営業黒字達成）

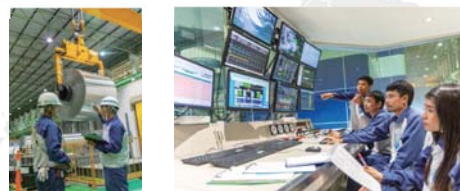
UATH 月次生産量 (単位: 千t)



年間統括

- ・缶材需要：アジア地域を中心に堅調
- ・生産量： 約203千t/年
- ・販売量： 約200千t/年
- ・損益： 想定通り進捗
+

操業面での現地化が加速



タイの拠点UATHの2019年度総括です。

2019年度は7月に第3期の投資設備が立ち上がりました。月あたりの生産数量は7月で1万8,000トン、10月以降は2万3,000トンとなり、好調な生産ができていることが実販売に繋がっています。

採算面では、10月～12月の第4四半期に、クォーターベースで初の営業黒字も達成しました。操業、運営の面で、オペレーターを含めた現地化が進み、多くのタイ人マネージャーが育ってきたということが大きいと考えています。

市場環境は、足元では新型コロナウイルス感染症の拡大の影響が出ると見えています。この影響については、後ほど説明します。一方で、長期的にはアジア地域を中心として缶材の需要が伸びると予想しています。

コロナ後の生産量拡大に向けて、こういった旺盛な需要をしっかりと取り込み、収益面でも2020年度は安定的に営業黒字を出し、引き続き経常利益の黒字化を目指していきます。

2. 2020年度の対応方針

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

2020年度の対応方針を示します。

足元経営環境認識

日本： 国内経済活動が大幅に縮小されており、自動車・機械向けを中心に需要が鈍化
北米： 生活必需品である缶材は堅調も、自動車用部材は経済活動規制の影響を受ける
アジア： 飲食店、小売店を営業停止にしている国も多く、缶材を中心に足元の需要が鈍化

地域別主要品種の経営環境認識

日本： 缶材：イベント中止や外出自粛の影響があるものの、底堅い需要
自動車：グローバルでの経済活動規制の影響を受ける
IT材：在宅・テレワーク需要増加によるIT関連製品の需要増に期待も不透明感が強い
厚板：液晶・半導体向けは5G関連の需要が上向きも本格回復には時間を要する
北米： 缶材：生活必需品であると同時に、脱プラスチックの影響もあり、アルミ缶の需要は旺盛
自動車：経済活動規制の影響を受ける
アジア： 缶材：各国での飲食店、小売店停止の影響を受ける
熱交材：グローバルでの自動車販売低迷の影響が出始めている

経営環境認識です。

足元では特に、2018年度の下期から続く米中貿易摩擦が長期化し、中国経済が減速するにともなって、国内外に影響が出てきました。ここに新型コロナウイルス感染症の拡大の影響が新たに加わり、グローバルで経済が減速している状況です。

なかでも国内は、経済活動が大幅に縮小しており、自動車、機械産業向けの需要が引き続き低迷すると見込んでいます。

北米については、缶材の生産販売は生活必需品という位置付けもあり堅調です。自動車部材関係は、工場が米国の活動規制を受けながら稼働しているため、若干の影響が出てきています。

アジア地域は、缶材の需要はあるものの、飲食店あるいは小売店の営業停止等々の影響も出てきており、主要な缶材を中心とした市場の分化が想定されます。

日本、北米、アジアとも、生産活動については、それぞれの国の事情にしっかりと対応して稼働していきます。一方で、必要な物品の生産を継続することに変わりはないものの、5月以降は少し生産販売への影響が出てくる懸念があります。

2020年度 業績見通し

2020年度の通期業績見通しについて、新型コロナウイルス感染拡大の影響により今後の需要産業の動向が不透明であることから、現時点で合理的な予想の算定が困難であるため、未定としております。

配当

通期業績見通し未定に伴い、配当につきましても未定といたします。

2020年の業績見通しについては、現時点では合理的な予想の算定が困難であると考えています。したがって業績の見通しは未定とし、それにともない、配当についても未定とします。

3. 新型コロナウイルスの影響と対応

それでは、新型コロナウイルスの影響について説明します。

受注環境は不透明感増すも、グローバル主要拠点は稼働を継続中

受注動向、マーケット状況

顧客との直接営業活動が制限される中、テレワークの活用で最新情報入手に注力も先行きは不透明
各国行政指導に基づく課題にも柔軟に対応し、顧客・取引先の動きをサポート

- 缶材等生活必需品関連：4月までは影響軽微。5月連休の移動減少の影響注視
- 自動車関連：OEM操業停止にあわせ、5月以降一時的に需要停滞。生産調整
- 電子関連：中国内操業停止のBCP対応で一時的な生産増も想定
- 医療関連等：感染防止、医療体制維持に必要な要請は、最優先で対応

主要拠点の稼働状況

日本	名古屋・福井・深谷はじめ製造ラインは、受注減に応じ、一部設備で数日間の操業調整を実施。基本は、通常通り操業継続
北米	TAA：操業継続中 UWH*：行政指示に従い3月末からライン停止 5月18日より操業再開。 他所も行政指示・要請を踏まえて対応中
タイ	UATH：操業継続。他地域との人的移動も原則行わず感染防止に最大限配慮 押出等：自動車関連等で一部操業調整
中国	足元は各拠点とも操業中
東南アジア（除タイ）	足元は各拠点とも操業中

* UWH: UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

19

受注環境は不透明感を増していますが、グローバルでの主要拠点は、感染拡大の対策をしっかりと取りながら、稼働を継続しています。

お客様と直接対面しての営業活動が制限される状況にあるため、テレワークなどを活用して最新情報の収集に努め、営業活動とお客様へのサポートを継続しています。

2020年の4月、5月の状況については、缶材等は4月までの影響は微減に留まりました。5月以降は影響が出てくると見込んでいますが、大きな影響はないと予想しています。

自動車関連では、自動車メーカーが多くの拠点で操業を停止していることから、5月以降はその影響が素材にも出てくると見られます。これにともない、生産調整などを実行していきます。

電子関連では中国国内における操業停止を受けて、BCP関係の対応を含む生産拠点の変更等もあり、5月以降は一時的な生産増を想定しています。

医療関連については、感染防止のため、また医療体制維持のため、これを最優先にして必要な要請にしっかりと対応していきます。

資金調達に万全を期し、必要金額を確保。徹底した感染防止対策をグローバルで実施

資金調達

- ① 手元資金残高：2019年12月末 195億円 → 2020年3月末 287億円
- ② 20年4、5月で新型コロナ対策資金として追加で約300億円を調達
- ③ 金融機関との間で、430億円のコミットメントライン（即時融資枠）を設定済み

感染予防・感染拡大防止対策への対応

- 生活必需品の缶材を中心に感染対策を徹底しながら生産を継続。
- 国・地方自治体などの指導・要請への協力をベースに、感染防止を第一に、グループ全体として慎重に経営判断を行う。製造所内感染を想定した生産代替プランも並行して検討中

- ① スタッフ部門：原則在宅勤務（テレワーク） → 8割以上が在宅勤務
生産に関わる生産・整備部門：行政要請をベースに感染対応を徹底しながら生産を継続
- ② 当社主催行事は当面見合わせ、国内外の出張は原則禁止。Web会議・ICTツールを活用
- ③ 海外赴任者等に対しては、赴任国の指示をベースに、赴任地域の感染状況・医療状況をふまえ対応

20

UACJにおける事業継続、感染防止の取り組みについて説明します。

資金面では、手元資金残高に加え、今回の新型コロナウイルス感染症拡大に対応するため追加で調達した資金、あるいはかねて金融機関との間で設定しているコミットメントラインに基づく資金などを合わせ、約1,000億円程度を準備できています。足元では万全な状態にあると考えますが、今後は状況に応じてさらに資金を確保するなど、柔軟な対応を予定しています。

感染予防、感染拡大防止策については、生産拠点が所在する国、地域の行政の方針に則って方針を定め、柔軟に対応しています。これまでのところ、大きな影響は出ていません。従業員ファーストを意識し、雇用継続を第一に考えて取り組んでいきます。

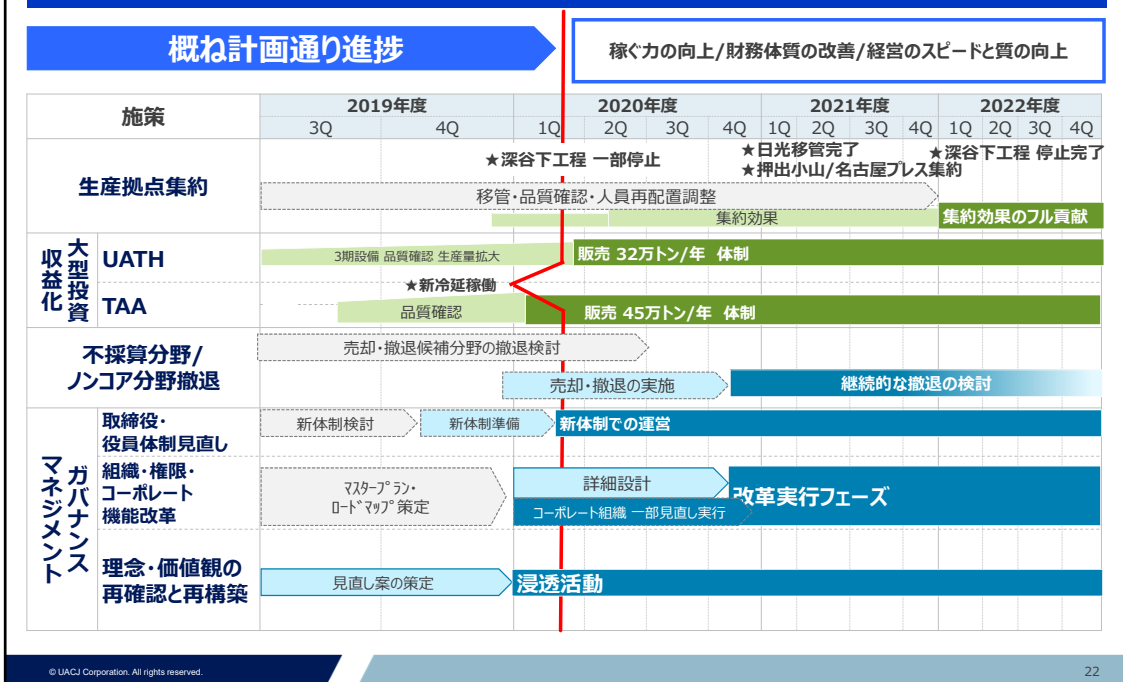
4. 構造改革の進捗

構造改革について説明します。

構造改革の進捗



構造改革の各施策はロードマップに沿って計画通りに進捗



構造改革のロードマップと現在の進行状況です。2020年の第1四半期にあたる箇所に、赤い線で各項目の進捗を示しています。

生産拠点集約、大型投資、収益拡大、不採算分野・ノンコア分野、またガバナンス・マネジメントについては、おおむね計画通りに進捗しています。

北米TAAの新冷間圧延ラインの立ち上げ時期が、新型コロナの影響もあってやや遅れていますが、販売に影響を与えることはありません。お客様との関係も踏まえ、順次生産対応していくフェーズに入っていきます。

生産拠点の集約



深谷製造所下工程停止、日光製造所の閉鎖は計画通り進捗

方針	
生産拠点の集約化による 固定費削減・稼働率向上	
施策	進捗
深谷製造所下工程停止 →名古屋・福井へ集約	下工程の一部を予定通り停止 (一部停止: 2019年4Q / 停止完了: 2021年4Q)
日光製造所閉鎖 →自動車熱交材のUMP*への集約	従業員の配置転換・人事異動について労使間で合意 自動車熱交材のUMPへの集約に向けて顧客と協議中 (移管完了: 2020年4Q)
押出小山/名古屋 →プレス集約と最適化	名古屋製作所に最新鋭プレスを設置 →旧型プレスを停止し、生産の集約を開始

* UACJ Marketing & Processing Corporation

23

国内の生産拠点集約の進捗です。

深谷製造所の下工程停止、日光製造所の閉鎖については着実に進んでいます。

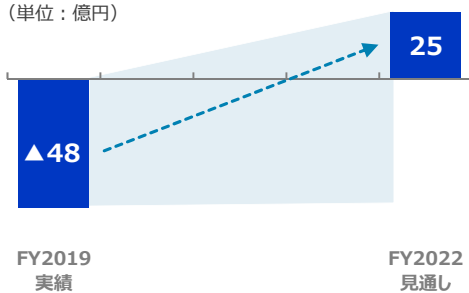
押出関係では名古屋の新型の押出プレスの立ち上げにともない、他拠点の旧型のプレスを停止する準備に入っています。こうした施策を通じて生産の効率化を進めていきます。

第3期投資設備が稼働し、販売量拡大・コスト削減が加速

重点施策/経常損益見通し (棚卸評価除き)

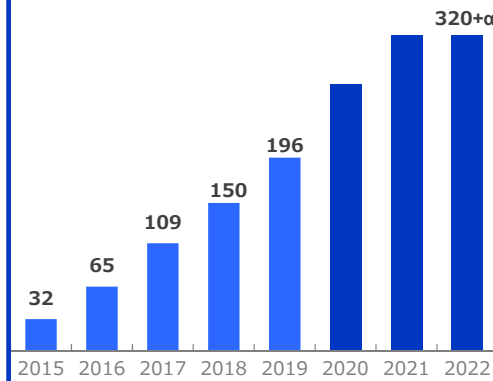
- 第3期設備の本格稼働による販売増
- 直販機能強化による新規顧客獲得と価格改定
- 長期契約の獲得と販売地域の拡大
- 増産効果によるコスト削減

(単位：億円)



UATH 年間販売見通し

年間販売数量 (単位：千トン)



UATHにおける大規模投資と収益改善についてのまとめです。

2019年度のUATHの経常利益は、棚卸利益を除くとマイナス48億円でした。この第3四半期に設備を本格稼働したことから、それとともなって生産販売量も増加しており、計画通り推移しています。

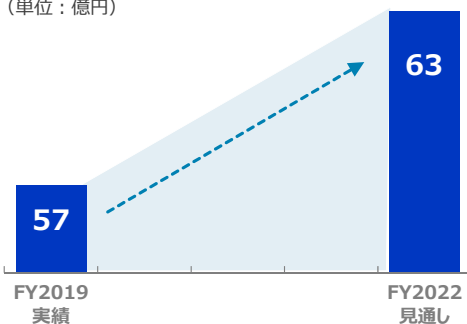
これにより2019年度の年間販売量は19万6,000トンとなり、2022年度には32万トン以上を予定しています。2022年度に経常利益を25億円とする目標の達成に向けて、今後も邁進していきます。

缶材需要旺盛の中、販売量拡大・価格改定・コストダウンにより増益を実現

重点施策/経常損益見通し (棚卸評価除き)

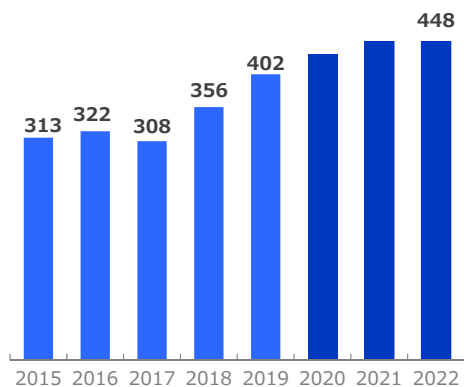
- ・増産投資完了による販売量増加
- ・長期契約更新による数量確保と価格改定
- ・スクラップの活用による製造コストの削減

(単位：億円)



TAA 年間販売見通し

販売量推移見通し (単位：千トン)



*1USD=108円で計算

25

北米TAAの収益改善についてです。

缶材需要が旺盛であることに加えて販売量の増加、スクラップの活用によるコストダウンも大きく寄与し、2022年度の利益目標実現に向けて順調に推移しています。

不採算分野/ノンコア分野撤退



国内・海外共に不採算分野/ノンコア分野の是正・撤退を加速

方針

低採算分野の是正・撤退

エリア

進捗

国内事業



UACJ金属加工 深谷工場を閉鎖 (5月)

海外事業



- ・インドネシア押出合弁事業を解消 (6月)
- ・タイ加工品事業：60名削減継続

26

不採算分野・ノンコア分野の撤退については、2020年のプレスリリースにて発表した通りです。今後も活動を継続します。

取締役・役員体制見直し

UACJ

取締役、執行役員の人数を削減し、意思決定のスピード向上、組織強化を図る

現行体制

新体制

執行役員 27名

14名

社内取締役 8名
(執行役員と兼務)

6名

社外取締役 4名

4名

責任・権限の明確化

意思決定のスピード向上

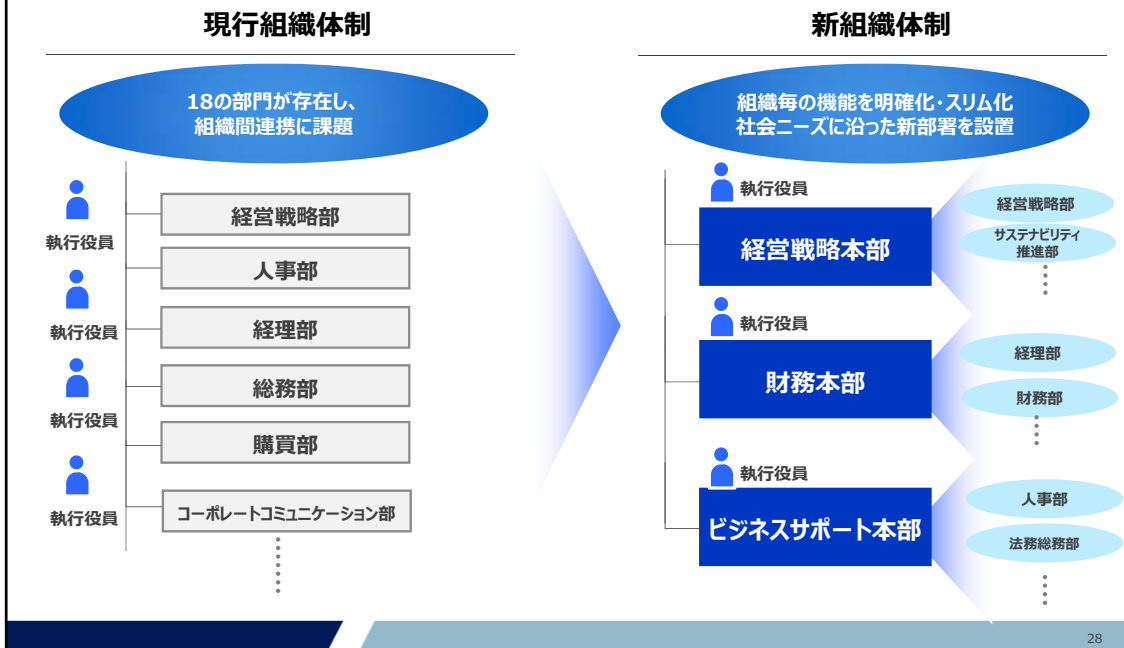
27

取締役・役員体制の見直しについてです。

今後は意思決定のスピードを向上させ、組織の基盤強化に努めます。

コーポレート部門の本部制導入

コーポレート組織体系を見直し、構造改革の実現に向けグループガバナンスを強化



コーポレート部門の見直しについて説明します。

グループ・グローバルでガバナンスを強化すべく、このたび体制を見直しました。新体制のもと、コーポレート部門が板事業のみならず、グループ全体の運営にしっかりと関与し、ガバナンスの強化に努めます。

例えば経営戦略にサステナビリティ推進部を新設するなど、ESGの観点から、非財務活動も強化していく考えです。

存在意義から見つめ直し、若手から経営陣までの参加型でUACJらしい理念を再定義



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

新・企業理念体系に基づき、企業風土・文化をUACJらしくする

29

最後に、企業理念の再定義について説明します。

UACJは今後の構造改革に向けて、グループ全員が想いを一つにしていくべく、新たに企業理念を再定義しました。

定義にあたっては、先人たちから引き継いだ経営精神・社訓を歴史として学んだうえで、UACJが6年目に入ったいま、自分たちがどういう行動方針で仕事をしていくべきだと考えているか、社員約400名を対象として聞き取り調査を行いました。その結果を整理し、3つの価値観に表しています。

さらに、この価値観に基づく「Way」を策定しました。中期経営計画でも述べた通り、ものづくりの企業として当たり前の「安全」と「コンプライアンス」を土台としつつ、このWayをグループ全体に浸透させることで、今後我々が何かを始めようとしたとき、あるいは迷った時の道しるべとなることを期待しています。

UACJは今後、新たな企業理念の実践を通じて、地球の持続可能性に貢献し、また自らも長期に発展していく企業として、SDGsをはじめとしたさまざまな目標の達成に取り組んでいきます。ステークホルダーの皆さまの期待にお応えできるよう、UACJらしい企業風土、文化というものを、ともに作り上げていきたいと考えています。

以降のスライドは参考データとなりますので説明を省略します。

以上で説明を終わります。どうもありがとうございました。

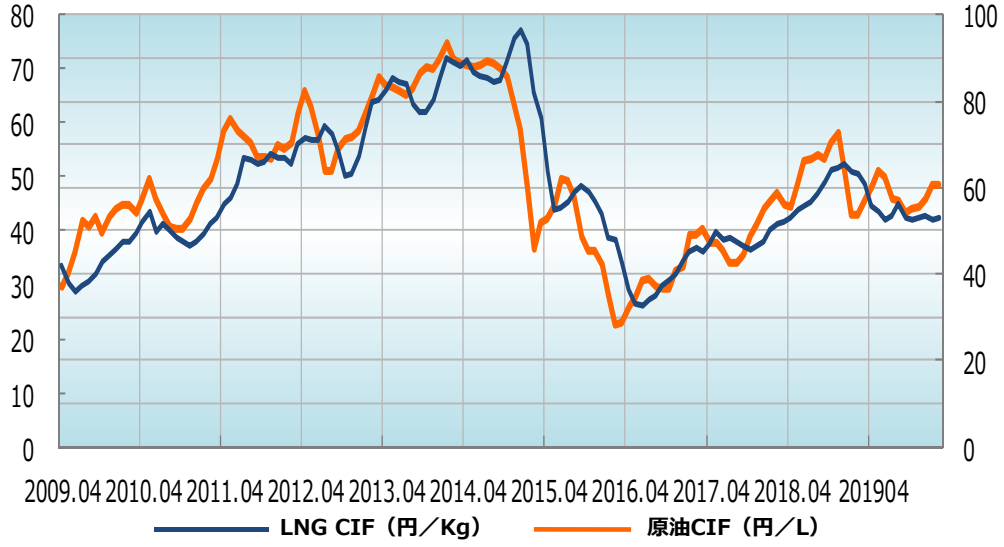
ご参考データ

燃料単価推移



原油 CIF
(円/L)

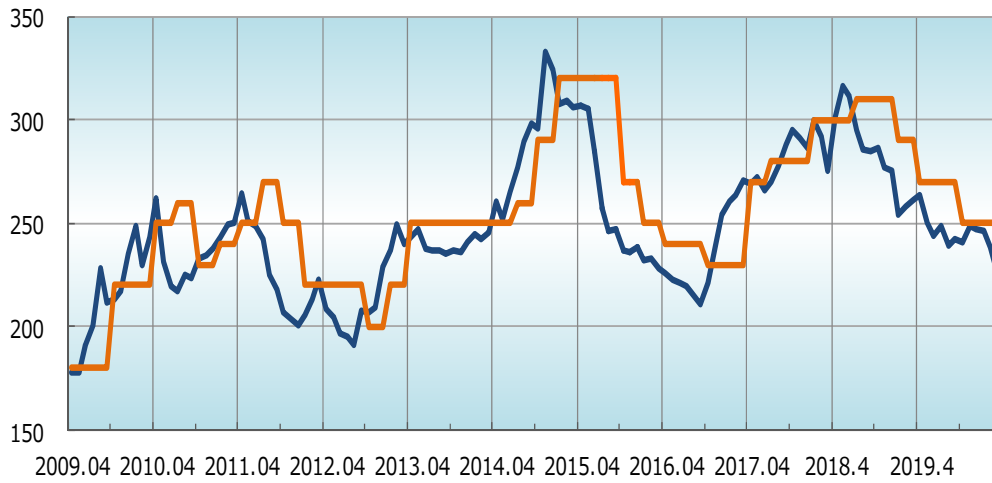
LNG CIF
(円/Kg)



アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



(円/Kg)



— アルミ日経市況 — アルミ基準地金

	2019年度 (実績)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	245	10円/kg上昇した場合 →+20~+30億円/年
LME (米\$)	1,749	\$100/t上昇した場合 →+22~+35億円/年
為替 (円/米\$)	109	ほぼ影響なし
為替 (円/タイパーツ)	3.5	・燃料単価、添加金属：円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差：円安が有利
原油 (ドバイ: 米\$)	60	10ドル上昇した場合 →△10~△15億円/年

(億円)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
売上高	5,725	5,757	5,683	6,243	6,613	6,151	
連結営業利益	237	152	259	292	149	101	
棚卸影響前連結経常利益	142	203	240	113	30	98	
<棚卸評価関係>	71	△83	△42	81	32	△60	
連結経常利益	213	120	198	194	62	38	
連結当期純利益	86	51	87	123	11	20	
Adjusted EBITDA	417	523	568	507	426	473	
設備投資	一般投資	120	124	112	147	161	143
	戦略投資	345	181	204	365	365	347
	合計	465	305	316	512	525	489
減価償却費	218	222	228	251	307	312	
戦略投融資	38	55	231	33	-	6	
自己資本	1,723	1,650	1,841	1,942	1,910	1,884	
自己資本比率 (%)	25.4	24.9	25.4	25.1	23.7	25.0	
有利子負債	2,959	2,890	3,238	3,423	3,751	3,440	
D/ELシオ (倍) *	1.72	1.75	1.49*	1.50*	1.68*	1.56*	
ROE (%)	5.3	3.0	5.0	6.5	0.6	1.1	

* 劣後ローンの資本性考慮後

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

コーポレートコミュニケーション部 TEL : 03-6202-2654 FAX : 03-6202-2021
URL : <http://www.uacj.co.jp>
(東証1部 コード番号 : 5741)